

# 平等院



京都市の南、宇治川のほとりには、平安の昔を偲ばせる名所がいくつかある。今回はそのうちの一つ、「平等院」を訪れてみた。(ココアリキユール)

京阪電鉄宇治線の終着駅、宇治駅から少し歩くと、「平等院表参道」が始まる。車の少ない石畳の道は静かで落ち着いた雰囲気だ。道沿いには名物の宇治茶の店が並び、京風の建物が風情を醸し出している。

のんびりと歩くうちに、平等院の門が見えてきた。敷地内は史跡名勝に指定されている広い庭園になっており、道に敷き詰められた砂利、ところどころに置かれている苔むした岩などが日本的な情緒を感じさせる。春は梅や藤、秋は紅葉、そして初夏はいっせいに花開く睡蓮と、四季折々の様々な花を楽しむことができる。

庭園の中央には「阿字池」が深緑色の水をたたえて広がり、そのほとりに優雅に佇むのが、十円玉の図柄で有名な「鳳凰堂」だ。

平安時代、藤原頼通が極楽浄土を地上に表現するために建てたと言われるこの堂は、本堂と左右の翼楼から構成され、壁にうっすらと残る朱の色とも相まって、大きく翼を広げた鳳凰の姿を連想させる。正面から向き合くと、長い歳月を経てきたものだけが持ちうるその風格に深い感銘を受ける。



園内の道に沿って歩くと、「鳳翔館」に着く。ここは阿弥陀如来像、鳳凰像などの重要文化財が展示されている平等院のミュージアムだ。「周囲の景観を損なわないように」との配慮から、大半が地下構造である。2001年3月に開館したばかりの新しい施設で、内部では地下部の照明に自然光を使用したり、3D-CG技術を駆使した鳳凰堂内の再現映像を上映したりと様々な工夫がなされている。

館内の展示品の中で注目したいのが、52体の「雲中供養菩薩像」だ。それぞれが雲に乗り、様々な楽器を奏でながら飛ぶ姿が伸び伸びと彫り上げられている。まるで今にも動き出しそうなほど迫力のあるこれらの像が、そろって壁一面に展示されている様は、一見の価値がある。

鳳翔館の出口から、道はもと来た門へと続く。振り返って鳳凰堂をもう一度眺めていると、なぜ人々が先人の文化遺産を守ろうとするのかわかるような気がした。古の文化の粋を、現代の新技术による味付けを加えながら今に伝える場所。それがここ、平等院なのだ。

## 平等院データ

宇治川  
宇治駅  
宇治橋  
平等院表参道  
平等院

鳳翔館  
鳳凰堂  
阿字池  
表門  
鳳翔館入口

出町柳駅から京阪に乗り、中書島駅で宇治線に乗り換え。宇治駅で下車、徒歩5分。  
入園 午前8:30~午後5:30  
(入園受付 午後5:15まで)  
拝観料 入園+鳳翔館 600円  
鳳凰堂 500円(入園とは別)

はみだし  
すてーじ

皆がスギ・ヒノキ花粉症を忘れた頃、私はイネ科の花粉症でさびしく苦しむ。  
→うわあ、大変そう。秋田や新潟には到底住めませんね。

(葉・2 green)  
(まだ花粉症はセーフな編)